

第4回函館市観光振興財源検討委員会 議事録（概要）

■ 開催日時

令和元年11月20日（水）18：00から19：15まで

■ 開催場所

市役所本庁舎8階第1会議室

■ 出席委員・オブザーバー

奥平委員長，大橋副委員長，高地委員，辻委員，寺井委員，布谷委員，渡部委員，金道オブザーバー，遠藤オブザーバー

■ 欠席委員

酒井委員

■ 傍聴等

北海道新聞社，函館新聞社

■ 議題

- (1) 第3回検討委員会議事録の承認について
- (2) 観光振興に関する財源確保策の検討について

【会議の概要等】

1 開会

2 第3回検討委員会
議事録の承認につ
いて

奥平委員長

第3回検討委員会の議事録については，配付のとおりである。承認いただきたいが，いかがか。

(委員同意)

3 資料1 第3回函
館市観光振興財源検
討委員会議事概要

奥平委員長

前回の確認として、観光施策の拡充と財源確保策の検討については、宿泊事業者の負担を軽減することを前提として宿泊税の導入を進めるということで意見の一致をみた。

提言書の付言については、定額制・定率制の選択、3～5年毎の制度の見直し、北海道との調整、入湯税の減額、宿泊事業者へのサポート、宿泊税を宿泊客の増加に結び付ける施策やオーバーツーリズム対策への充当などの意見が出ている。

また、オブザーバーの方からも、多くの宿泊事業者が宿泊税の導入に理解を示していないという実態についてもお話いただいている。

検討委員会としての最終的な提言をまとめるにあたり検討委員会として議論を深めるため、事務局にパブリックコメントや関係者向け意見交換会を開催させたところである。

第4回検討委員会では、提言の内容について、パブリックコメントや意見交換会でいただいた意見も踏まえつつ検討を進めていきたいと思う。

資料2「函館市観光振興財源検討委員会の検討内容に対するパブリックコメント（意見公募）の実施結果について」、資料3「函館市観光振興財源検討委員会意見交換会でのご意見について」、資料4「提言の取りまとめについて」、事務局より説明をお願いする。

4 資料2「函館市観
光振興財源検討委員
会の検討内容に対す
るパブリックコメン
ト（意見公募）の実
施結果について」、

（配付資料に基づき、事務局から説明）

資料3「函館市観光振興財源検討委員会意見交換会でのご意見について」、資料4「提言の取りまとめについて」

5 提言の取りまとめについて

奥平委員長

私の方でもコメントを確認したが、パブリックコメント、意見交換会で宿泊税の導入について理解を得られない意見も多数あった。9件のパブリックコメントを確認したところ、「前向きに賛成するもの」が1件、「他の手法の検討を促すもの」が1件、

「絶対に反対するもの」が1件、「反対ではあるが導入する場合の条件を付すもの」が5件、「検討委員会の議事進行に関するもの」が1件という結果でした。

様々な意見があったが、本検討委員会では前回確認したとおり、宿泊税導入の方向で提言をまとめたいと考えている。

宿泊税を導入するとしても宿泊事業者の方には様々な負担が生ずると思うので、少しでも負担を軽減するために配慮すべきことを確認しておかなければならない。

具体的な制度設計について、函館市がしっかりと対応するために掘り下げて付言を取りまとめたい。

パブリックコメントと意見交換会で新たに出た意見を踏まえて、①用途、②制度設計、手法、事業者・宿泊客への配慮、③全体を通して、ご意見を頂戴したい。

大橋副委員長

パブリックコメントで「検討内容に、観光は地域間競争であると書かれているが、広域観光連携の取り組みのように協力・連携も必要であり、協力・連携

も明記するべき。」という意見があったが、表現は変えてもいいと思う。

「議論の経過がわかりにくい。」という意見については、提言に、議論の内容と結果をわかりやすく入れることができたらいと思う。

高地委員

パブリックコメント等の意見を見たが、使途について心配しているように感じた。

宿泊税の導入までには時間があるので、使途について市民やホテル業界の方に理解していただくよう努力が必要だと思う。

寺井委員

オーバーツーリズム対策、ナイトタイムエコノミー対策、イベントの強化など、地域の魅力をあげて、もっと観光客に来てもらえるように予算を使う、そのための財源が必要であるというふうに理解している。基本的に函館の地域の魅力をあげるための使途に限定して欲しいと考えている。

渡部委員

施設の老朽化が進んでいて、整備が課題になっているし、宿泊客数を増加させるという最大の目的もある。使途については、これらの施策に使うということでいいと思う。

遠藤オブザーバー

2018年度の観光客数が526万人、延宿泊客数が440万人だが、今後、客室数が3,000室増えるだろうと言われており、観光客数が700万人にならないと、残っていけないホテルが出てくる。使途については、700万人の観光客数を見込むために、何をすればいいかということ、制度設計の段階で考えていければよいと思う。

金道オブザーバー

今後、使途について現場の意見を聞きたいという提案を受けており、ありがたく思っている。

700万人の観光客数がなければ、宿泊業は、成り立たない。今後のことを考えると交流人口を増やさ

	<p>なければ、予算を確保できないことはわかるが、現在、宿泊業界は非常に足場が悪く、もう少し待てなかったのかと思っている。</p> <p>我々のほとんどが反対ではあるが、委員長から「少しでも宿泊事業者の負担を軽減するために配慮すべきことを確認しておかなければならない。」という発言があったので、今後は、制度設計と用途について函館市と話し合っていきたいと思う。</p>
布谷委員	<p>宿泊税は観光振興に特化して使うものであるから、委員会の皆さんに知恵を拝借しながら考えていければいいと思う。</p>
辻委員	<p>パブリックコメント、意見交換会で、厳しい意見が出ているが、一定の配慮があれば受け入れている意見も多くあると感じた。</p> <p>用途については他都市の施策が参考になると思う。システム改修について支援できればいいと感じた。</p>
奥平委員長	<p>イベントを続けるには、財源が必要となる。</p> <p>函館山の夜景が暗くなったと感じている。この部分に財源を充てて、函館市の部局間の連携、市民を巻き込んだ連携みたいな形で、夜景が明るくなるかもしれないという期待も持てる。</p> <p>次に、制度設計、手法、事業者・宿泊客への配慮について意見をお願いしたい。</p>
大橋副委員長	<p>入湯税については、パブリックコメントでも意見が出ているので、提言をまとめる際に、しっかりとわかりやすい形で入れるべきである。</p> <p>北海道との二重課税について、パブリックコメントでも出ていたが、情報はあるか。</p>
税務室長	<p>新聞報道の内容は把握しているが、北海道から公式な連絡は受けていないので、函館市としても判断できないところである。</p>

	<p>北海道の制度内容が公表された場合は、納税者となる宿泊客や宿泊事業者の負担が過重とならないよう制度設計をしっかりと考えていきたい。</p>
高地委員	<p>制度設計については、簡素で明快にするべき。使途について理解されないと、宿泊税は反発を受ける。航空便が少なく、観光客が来たくても来られないという状況になっていると思う。</p> <p>函館市の部局間で連携して観光を考えないと、全体として統一した議論ができないと感じている。</p>
寺井委員	<p>制度設計の中で、事業者への配慮という意見が出ているので、そこはしっかり対応しなければいけないと思う。</p> <p>宿泊税を納税するのは宿泊客になるので、きちんと理解して支払ってもらえるよう、周知広報を工夫して、広く浸透される取り組みをお願いしたい。</p>
渡部委員	<p>宿泊事業者の負担軽減が大切だと思う。また、システム改修の支援や、入湯税の軽減もしっかり議論すべきである。</p>
遠藤オブザーバー	<p>700万人の観光客を集客するためには、何をどうすればいいのか、そのためにはいくらぐらい費用がかかるのか、考えていかないといけないと思う。</p>
金道オブザーバー	<p>函館市が定額制にするのであれば、料金の安いお客さんを救うため、免税点を設けて欲しい。</p> <p>入湯税を廃止して欲しい、法律的にできないのは、わかっているが。</p>
布谷委員	<p>制度設計は、メリット・デメリットを調べて、この地域にふさわしいものを決めて欲しい。</p> <p>課税漏れがないよう努力して欲しい。</p>
辻委員	<p>制度設計は簡素がいいと感じており、定額制が簡素</p>

だと思っている。他地域を調べて、よりよい制度にして欲しい。

宿泊税が増えた分、他に財源が回されることがないよう、事業者の方に恩恵があるよう制度設計できればよいと思う。

免税点については、免税点を下回るような価格設定を助長することもあるし、価格の相場は、年によって変わることもあるので、その点も含めて検討すべきである。

酒井委員(事務局代読)

これまでと重複した意見になるが、財源の用途については、観光客や宿泊事業者、市民にその内容がわかるようにしっかりと公表していくことが重要である。

宿泊客と宿泊事業者に配慮し、入湯税を軽減すべきである。

奥平委員長

制度設計については、定率制と定額制のどちらがいか一概に言えないので、例えば、税制の専門家を入れた会議を作って、やる方法などもあると思う。今回は、宿泊税の導入を決めたということで制度設計は、この先の話になるが、いただいた意見を参考にしながら、次のステップに進んでいくべきだと感じている。

また、高地委員から飛行機の話がでていたが、飛行機が小型化していると感じる。そのことで観光客が函館に来にくくなっているのであれば、プロモーション活動をしっかりすべきである。

クルーザーが来ても、あまりお金を落としてくれないところがあるので、乗客がリピーターになれるようにプロモーションをかけてもいいと思う。

高地委員

目的税として入ってくる税収をどう使うかというところが一番重要になってくる。

観光部の予算を他に回して、観光部の減った分に充

奥平委員長	<p>当するという話にはならないと思う。</p>
大橋副委員長	<p>全体を通して、意見を頂戴したい。</p> <p>細かい部分を検討委員会で話し合っ決めて決めるものではないと思う。</p> <p>提言としては、「事業者の意見を聞きながら、細やかな配慮を行う、意見を反映する。」という言葉が入っていいと思う。</p>
高地委員	<p>理解を得られるように、「宿泊税がかかるが、函館の魅力が上がる、用途はこうです。」と広報していかないといけない。</p>
寺井委員	<p>縄文遺跡群が、順調にいけば2021年に世界遺産登録になるが、登録になる前に宿泊税を導入して欲しいと思うし、観光客を連れて行きづらいので、その辺の整備をしなければならない。</p> <p>最近、海外のワイナリーが函館に進出したが、これをPRし、観光客に来てもらえるような取り組みに財源を使うためにも、できる限り速やかに宿泊税を進めて欲しい。</p>
渡部委員	<p>現場の意見を聞いて制度に反映して欲しい。</p> <p>外人墓地を整備し海外にアピールしたり、環境衛生整備を行うなど、宿泊日数を多くするような施策を取っていくべきだと思う。</p>
遠藤オブザーバー	<p>宿泊税は、大勢の観光客が訪れるような形で使いたい。</p> <p>制度設計等は、優先順位を決めながら、知恵を出し合っ進めていきたい。</p> <p>宿泊事業者に対する配慮をお願いする。</p>
金道オブザーバー	<p>制度設計は大事であるし、財源をどう使っ観光客を増やすのか、ということも、同様に大事である。</p>

	<p>宿泊事業者の負担に配慮すべきという意見があり、ありがたいと思うし、そのための努力もしたい。ここ1～2年で客室数が3,000室増えるが、同時に観光客も増えないと、資金力のあるホテルが残り、財力のないホテルは潰されることになる。近年、ホテルが増えているのは、投資目的であり、宿泊税の導入はもう少し先でもよかったと思う。</p>
<p>布谷委員</p>	<p>資料に他都市の使途が出ているが、これは各都市の観光振興上の課題だと思う。函館も同じように課題があると思うので、使途については、予算は限られるので、優先順位をつけて進めるべきである。</p>
<p>辻委員</p>	<p>委員長から「制度設計に税制の専門家を入れる方法もあると思う。」という話もあったが、導入した場合、宿泊客と直接対面する宿泊事業者から意見を聞き、どうすればいいか丁寧に詰めていけばいいと思う。</p>
<p>奥平委員長</p>	<p>制度設計について様々な意見があり、それぞれメリット・デメリットがあると思うが、実際の制度設計を行うのは函館市なので、函館市が参考にできるように、付言を記載して提言書を取りまとめたい。</p> <p style="text-align: center;">(委員同意)</p>
<p>奥平委員長</p>	<p>パブリックコメントは、結果がホームページで公開されるもので、委員会として回答を付したものを資料(案)としているが、修正等はあるか。修正箇所があれば事務局に相談しながら修正していきたいので、私に一任いただきたい。</p> <p style="text-align: center;">(委員同意)</p>
<p>奥平委員長</p>	<p>観光振興のための財源確保の手法については、宿泊税の導入に向けた提言とし、導入にあたって留意す</p>

奥平委員長

べき点として、これまで出た意見を付言として取りまとめることとしたい。次回に提言書（案）を示したいがよろしいか。

(委員同意)

第5回検討委員会で提言書（案）を示して、修正がある場合は、第6回検討委員会を持ち回りで対応したいが、いかがか。

(委員同意)